

川を遊覧しましたが、何艘もの遊覧船は機(はた)の梭(ひ)が行き来するように目まぐるしく、人を迷わせるほどの兩岸の景色に、我々の喜びの声と笑い声が満ちあふれ、友情と美しい景色とが交錯した場面でした。皆は即興で詩をつくり、友情を語り、盃を高く持ちあげて中日国交正常化十周年を祝いました。中日の友好が球磨川を駛っている舟のようにさまざまに前進するよう祈っております。

我々は海拔千五百九十二メートルの阿蘇山に登りましたが、その雄姿は人々をして称賛せずにはおけません。そこでは、我々は沢山の日本各地からの修学旅行の中学生と出会いました。彼等は我々が中国から来た代表団であることを知ると、即座に「你好」と挨拶をしてくれました。これらの人々の感情を揺さぶる程の声は、我々にまるで自分の家にいるような感じにさせ、格別うれしい気持ちを抱かせました。そして、中日友好という事業は、すでに深く両国人民の中に根をおろしたという実感を感じました。

我々が八代市の代陽小学校を訪れたとき、又、県庁前で天真爛漫な子どもたちが、両国旗の小旗を振って逞しく盛んな歓迎の音楽を演奏しながら道の両側に並んで我々代表団を迎えてくれた時の場

義をうけ見学をしましたので、野菜周年出荷の作型が分かりました。とにかくこの研修でいろいろな知識を身につけました。そのほかに日本の農協の役割について自ら農業協同組合と、又、圃場を見学し、農家の生産意欲、生活ぶりを肌で感じる事ができました。日本の農協は農家そのものの組織であると思います。日本の農業の発展と農家の利益保護に大きな役割を果たしている農協は「万人は一人のために一人は万人のために」という精神のもとに豊かな道に歩む農家の組織であると思います。

熊本県は景色の美しく壮麗な阿蘇山だけでなく各住宅の庭、丘陵、山にも植林緑化されています。とりわけ天草五橋の風景は絵のごとく、青山、緑の海に五橋が見え隠れし、とうとう流れる波の上を船が往来する様子は、まるで自分が詩の世界にいるような気さえます。その素晴らしさは何ともいえないかもしれません。私達にとって一生忘れないことは県庁、市役所、日中交流協会、など私達の研修、見学、日常生活のために苦労をいとわず昼夜働いて下さったことです。講義担当の諸先生方は失敗談等実践経験をまじめに熱心に教えて下さり、非常に参考になりました。先導農家での体験実習の時、彼らは私達を家族の一員として受け入れ、

面は、中日両国人民が子々孫々友好を続けて行くことを望んでいるということに十分に表わしていました。我々はこれらの幼い心の中に中日友好の新しい芽生えが始まっているのを見出し、このような次の世代が控えていることをうれしく思いました。

私は両国政府と人民の相互の努力によって、中日友好が我々が一緒に植えた友誼の木のように逞しく成長し、広西と熊本県との友誼が、このくすの木とともに永久に栄えることを確信しています。最後に、私はもう一度、我々代表団を手厚く接待して下さいました県、市、議会、及び各方面の関係者並びに多くの県民の皆様様に心からお礼を申し上げる次第です。

心暖まる農家での体験実習

●研修を終えて
広西壮族自治区農業技術研修生
莫家崇・丁玉治・江自榮
蔡子泉・徐成華
私達一行五人は熊本県知事沢田一精先

日常生活ばかりでなく水田・ハウス・家中、どこでもすべての機会を利用して、如何にして自然を克服し、収穫量を増やしたかという貴重な経験を教えてくださいました。お別れの前後、鏡町の受入農家坂田さんの八十歳になる高齢の母親は日本語をうたったり踊ったりしてくれました。みんな家族のように思われ、実にお名残り惜しい思いでした。名残りの涙も流れました。農大に戻ってから天明町の受入農家渡辺さん夫婦と高野さん夫婦、鏡町の仲上さん夫婦と坂田さん夫婦はわざわざ手製のまんじゅうや西瓜を送ってくださいました。「天光雲影遠道来、初見如故笑顔開、精湛農芸我敬学、友誼花榮傳万代」と言われる。

中日両国は一衣帯水の友好隣国であり、昔から友好交流をつづけています。人類幸福のために世々代々仲よくしてゆけますよう心からお祈り致します。

生の招へいに応じ、広西壮族自治区人民政府により派遣されて熊本県の農業を考察するため訪れ、三ヶ月余各地の人々から心暖まるご指導をいただきい勉強になり、今回の考察研修の任務を全うし無事終了することが出来ました。沢田一精先生、熊本県民、友人のみなさまに心から謝意と敬意を表します。

三ヶ月間、私達は主に熊本県立農業大

講義、実習、訪問を通じて、日本は工業ばかりでなく農業も発達していると思えます。熊本県の農業生産は十数年来急速に発展し、日本の有数の食糧生産地となつています。お米、そ菜、蜜柑は自給余剰があり、畜産も自給で事足りります。農、林、水産、畜産は工業の発展にもなつて農業機械化がほぼ実現されています。稲作栽培の機械化のレベルと種子の純度の向上、育苗技術の進歩、施肥技術の向上、病害虫防除、中干しの灌漑、科学的基盤整備、土壌改良で稲作の生育が旺盛です。成熟期でも葉が黄色、しかも葉が青くて登熟歩合が高いこと、そ菜施設栽培とF₁(一代雑種)と接木技術の普及、周年作型で暖地と高冷地の出荷調節がうまく行くこと、柑橘の高接、合理

▲特選▲
**アメリカ合衆国
モンタナ州との
姉妹提携**

米国モンタナ州との姉妹州提携は、一九七九年八月マイク・マンスワイル駐日米国大使が来熊された際に提案があり、その後、双方で情報収集を重ね、調査団の派遣やテッド・シュインデン同州知事夫妻や、友好交流代表団の来熊などを経て、本年七月二十二日、同州の州都ヘレナ市において、調印式が行われました。最初の交流事業として、夏休み期間における高校生のホームステイ交換が行われました。モンタナ州からは、州内各地から選ばれた十名の高校生(男子二名、女子八名)が七月二十二日から一カ月間、熊本市内の各家庭に滞在し、高校生達は家庭生活を通じ、日本の文化、生活に触れ、ホストファミリーとの交流を深めるとともに、県内各地の視察やいろいろな行事への参加等を通じて、県民との友好親善に大きな成果を挙げました。また、本県からも十名の高校生(男子二

的品種更新、科学的にせんでいし施肥、灌水、病害虫防除、だんだん畑に栽培しても安定、多収、良質のものができます。また畜産業の養殖技術もすすんでいると思います。これらの技術は私達にとって大いに学ばべきでしょう。

研修の時間は短かったのですが、当自治区稲作の問題点が見出されました。それは当自治区の基盤整備、土壌改良、先進的な栽培管理技術、肥料の不足にあります。だから今後これについて力を入れ、そうすると稲作の収量が必ず増産できると思っています。またそ菜施設栽培の講



広西壮族自治区農業技術研修生と県関係者(県庁)

名、女子八名)が、八月二日から二十四日まで同州を訪ね、州内各都市の家庭に滞在し、ホームステイを経験しました。ホストファミリーや州民との交流は、彼らにとって、貴重な体験で、たいへん有意義であったという報告が届いております。

今後、両県州においては、双方で具体的な協議を行い、様々な分野で交流が進められることとなっております。また、今回の両県州間の姉妹提携と同時に、熊本商科大学とモンタナ州内の九つの大学との大学間提携並びに熊本放送と同州内の四つの放送局との間の提携がそれぞれ実現しました。これは民間交流を進めるうえで、たいへん意義深いことであり、今後、活発な交流が期待されています。以下に、モンタナ州の概要について紹介します。



姉妹提携の調印を行なう両知事